

平成28年度 事務事業外部評価結果 集計表

※評価点は、8名の委員がそれぞれ妥当性、効率性などについて各事務事業ごとに5点満点で評価したものの平均です。

A：事業をさらに推進することが妥当（評価点 4.0以上）

B：事業を現状のまま継続することが妥当（評価点 3.0～3.9）

C：事業の一部修正・再検討（事業内容・手法・規模・実施主体等）が必要（評価点 2.0～2.9）

D：事業の見直し・休止・廃止について検討が必要（評価点 1.9以下）

登録No.	事務事業名	評価点	委員会評価	コメント
1	常磐自動車道の4車線化、相馬福島道路の早期完成	4.4	A	・工事の進捗状況等の情報発信に努め、相馬福島道路の期間内完成、常磐自動車道の4車線化は、安全性・利便性向上のために必要であると思われるので、強く関係機関に要望をお願いします。
2	高速バスの運行	4.0	A	・JR常磐線開通後も、何らかの形で必要と思われるので、状況を検討しつつ、引き続き事業の継続をお願いします。
3	雨水の排水対策	4.6	A	・防災・洪水対策のためにも、事業完成後のメンテナンスを十分に行える体制を維持し、適切な維持管理に努めてください。
4	災害危険区域の土地利用	4.2	A	・計画の進捗よく状況等、具体的な情報発信をしながら、十分に市民の意見を反映させた有効な土地利用を図ってください。
5	住居環境整備の促進	4.4	A	・被災者の意向に十分耳を傾け、新たなコミュニティ形成と、移転しやすい住居環境を醸成し、一日も早い事業の完了に努めてください。
6	応急仮設住宅から恒久住宅等への移行	4.4	A	・仮設住宅から恒久住宅に移転できない被災者に寄り添った対応をし、早期の移行実現を望みます。
7	避難道路の整備	4.3	A	・誘導看板の設置も含め早期整備を望むとともに、完成箇所から順次公表するなど整備状況の市民への見える化を工夫しながら事業を進めてください。
8	公園の整備	4.2	A	・新設遊具の導入や駐車場の整備など、市民の意見を取り入れた利用しやすい環境にするとともに、地域の避難場所としての整備を望みます。
9	組長戸長制度による仮設住宅のマネジメント	4.5	A	・仮設住宅に残っている方が少なくなり、以前より不安が大きいと推察されるので、孤独死を出さないよう、見守りの方法の検討をお願いします。
10	被災した障がい者の健康訪問チェック	4.6	A	・被災者だけでなく、将来的には対象者を広げて活動を継続することも考えられるので、これまで以上のケアと既存のネットワークなどとの協力体制の再検討をお願いします。
11	被災者の継続的な健康診断と健康相談会	4.3	A	・受診しなかった方のために、受診率向上のための方策を検討し、市全体で健康寿命を伸ばす施策となることを望みます。
12	玉野地区住民の継続的な健康診断	4.3	A	・玉野地区の住民は減少することが予想されますが、個別訪問などのきめ細やかな対応を行い、受診率の向上に努めてください。
13	ワンストップサービスでの無料困りごと相談・法律相談	4.3	A	・市民が気軽に活用できるような工夫と、相談内容の変化に対応する様な相談会にするとともに、多くの方が利用できるよう情報提供を行いながら事業の継続を望みます。
14	放課後児童クラブの充実	4.6	A	・放課後児童クラブのさらなる充実と、市民への情報公開を行うとともに、資格者の確保ができるよう何らかの対策を検討することをお願いします。
15	応急仮設住宅等の災害弱者支援及びPTSD対策のための情報交換	4.4	A	・今後、対象者の把握が難しくなりますが、データベースを利用したきめ細かい対応と関係する各団体の密なる連携と情報共有による災害時の素早い対応をお願いします。
16	新たなコミュニティの確立	4.4	A	・従来の行政区との関わりについて検証し、市が積極的に関与しながら、各地域に応じた制度の運営と確立を進めてください。
17	交通弱者、買い物弱者への支援	4.7	A	・利用者のニーズを把握し細やかな配慮ができるよう計画的に実施するとともに、他の事業との整合性を図りながら、利便性のある支援をお願いします。
18	相馬井戸端長屋での生活支援	4.7	A	・長屋で暮らす方々が孤立しない様に、また開始当初の理念が薄れないように、今後も工夫を凝らした運営を望みます。
19	応急仮設住宅での買い物支援と災害弱者の安否確認	4.6	A	・恒久住宅への移行も踏まえ、今後とも他の事業との関連も考慮しながら、切れ目のない事業の推進をお願いします。
20	一人暮らし高齢者宅への声かけ訪問と昼食宅配	4.6	A	・他の事業との関連も考慮しながら、今後とも継続するとともに、活動をもっとPRして市民の協力を得るようにしてください。
21	放射線教育	4.3	A	・子どもたちだけでなく、一般市民へも放射線教育の機会を継続し、情報発信を継続してください。
22	除染の計画と実施	4.6	A	・再除染へも対応できるよう継続的な放射線量の測定・監視を行ってください。また、除染土の搬出には万全を期して実施してください。
23	外部被ばく線量測定	4.3	A	・市民の関心は低くなっていますが、市民の安全・安心のためにも、事業を継続するとともに、啓発活動の推進をお願いします。
24	学校給食での放射性物質測定	4.7	A	・食の安全を確かなものにするため、事業を継続するとともに、情報公開をさらに進めて、食材への不安を取り除くことと、地元食材の利用促進につながることを期待します。
25	ホールボディカウンターによる市民の内部被ばく検診	4.0	A	・安全・安心のため、事業を継続するとともに、受診率の向上のため、検診者を増やす方策を検討してください。
26	甲状腺対策	4.3	A	・安心のためにも、長期に渡って継続すべきであり、また、受診率の向上のため、さらなる市民への啓蒙をお願いします。
27	学校施設での放射性物質の除染	4.7	A	・子どもたちの安全・安心の確保のため、今後とも放射線量の測定を行い、再除染が必要なときは、速やかに除染を行ってください。

平成28年度 事務事業外部評価結果 集計表

※評価点は、8名の委員がそれぞれ妥当性、効率性などについて各事務事業ごとに5点満点で評価したものの平均です。

A：事業をさらに推進することが妥当（評価点 4.0以上）

B：事業を現状のまま継続することが妥当（評価点 3.0～3.9）

C：事業の一部修正・再検討（事業内容・手法・規模・実施主体等）が必要（評価点 2.0～2.9）

D：事業の見直し・休止・廃止について検討が必要（評価点 1.9以下）

28	玉野地区の農地除染	4.6	A	・定期的なモニタリングにより、除染が必要な場合には、再除染を行い、除染効果の検証をし、安全性についてPRに努めてください。
29	放射性物質汚染土砂等の仮置	4.4	A	・仮置場から搬出されるまでの間の維持管理を確実にするとともに、その情報公開をお願いします。
30	NPOと連携した心のケア	4.3	A	・長期の継続事業になると思われるので、支援体制の維持確保に努めてください。
31	被災児童のICTリテラシーの向上	3.8	B	・今後ますます必要となる機器であり、ICT機器の活用による学習指導の在り方について、効果向上を再考してください。
32	学力向上を目的とした学校提案型授業等への支援	4.3	A	・各校の提案に対する結果を公表し、教育レベルが向上したのかよく評価をするとともに、効果の高いものは共有するなど、工夫をこらしながら事業を進めてください。
33	中学生の学力向上・学習を支援する「相馬寺子屋」の開催	4.4	A	・中学生への安定した学習機会の確保のため、高校生を含めた活用も検討するとともに、寺子屋の活用について情報公開をすることで市民が理解するよう努めてください。
34	エルシステマとの連携による小中学生の健やかな教育の支援	4.7	A	・素晴らしい環境で音楽に触れることができるかけがえのない事業であるので、財源確保等を図りながら事業の継続をお願いします。
35	子どもを産み育てるための環境整備	4.1	A	・問題点をあらゆる方角から検討を行い、より効率的で利用者にとって利便性のある事業となるよう、努力するとともに、市内における産科医の確保についても尽力をお願いします。
36	婚活の推進	3.4	B	・追跡調査を行うなど成果に結びつくように事業を行うとともに、農業・漁業体験等を組み合わせた婚活など、より効果的な方策も検討してください。
37	英語教育の充実	4.2	A	・子どもたちの英語へ接する機会が増加するよう、ALTの人数やその力量などを考慮した体制整備をお願いします。
38	中村第二中学校校舎の改築	4.5	A	・教育環境の整備として、快適な環境になる様、空調機器が設置できるような対応を事前に盛り込むなど、将来に誇れる建築物となるようにしてください。
39	子育て支援施設の整備と利活用	4.4	A	・地域全体で子どもを育てる施設となるよう、受託管理者と協力して運営されるとともに、どの地域でも同じサービスを受けられる体制を構築してください。
40	子ども子育て支援センター相馬愛育園の利活用	4.6	A	・今後も情報提供を積極的にを行い、市民に利用してもらえよう、効果的な運営に努めてください。あわせて、有資格者の確保もお願いします。
41	ほ場整備を含む農地の災害復旧	4.5	A	・農地の集約と法人化を進め、若者にとっても魅力ある農業となるよう、関係機関と連携して事業を進めてください。
42	松川浦漁港共同利用施設の復興整備	4.8	A	・本格操業へ向けた施設の活用方法を検討するとともに、放射線検査結果をよりオープンにするなど、情報の発信に努めてください。
43	水産加工施設の活用	4.6	A	・販路拡大に向けて、新たな商品開発に取り組むなど、設備の利用が進むような支援をお願いします。また、風評被害払拭のための活動をより一層推進してください。
44	水産物等直売施設の整備と活用	4.5	A	・地域振興の拠点となるような、水産物の安全性のPRと観光客を多く呼ぶことができる施設の整備をお願いします。
45	商店街・中小企業への支援	4.1	A	・市と関係機関が連携し、プレミアム商品券以外にもあらゆる方策を模索して、より積極的な事業の展開を望みます。
46	相馬港の利活用促進	3.9	B	・相馬港の優位性を再度見直し、利用する企業のニーズに合ったポートセールスにより、積極的にPRをして、活用機会をアピールしてください。
47	中核工業団地への企業誘致	4.0	A	・高速交通網や港、道路の利活用に加え、住環境や教育環境の改善を行い、関連部署と連携して事業展開をしてください。
48	ハザードマップの利活用	4.2	A	・防災、減災意識を市民全員が持つよう啓発活動を行うとともに、市民の立場に立った、小さい子どもや高齢者、市内在住の外国人や市外からの来訪者にもわかりやすいマップを早急に作成することを望みます。
49	市庁舎の建設	4.8	A	・市民が利用しやすい庁舎となるよう常に検証を行い、市民が集まりやすい空間を作るとともに、災害時は防災拠点としての機能が果たせることを望みます。
50	歴史資料収蔵館・郷土蔵の利活用	3.7	B	・収蔵品の充実を図るとともに、説明資料も充実させ、収蔵館を市内外へPRし、利用者増加のためのイベント等を検討してください。
51	交流人口拡大に向けたスポーツ施設の利活用	4.5	A	・事業のメリットを生かすため、来訪者の宿泊に対する対策を確実に実施するとともに、施設のPRと周辺環境の整備を積極的に行ってください。
52	後世の伝達のための資料収集と中間報告の発行	4.5	A	・大震災の記憶が薄れないうちに、後世に残せるよう関係機関と連携して、関係資料の収集を十分行うことを望みます。
53	伝承鎮魂祈念館の利活用	4.4	A	・来訪者に震災の教訓を伝えるとともに、再来場者確保のためにも、史料が古くならないよう、日頃から点検、工夫を進めてください。
54	再生可能エネルギーの活用策の検討とモデル事業の実施	3.8	B	・低炭素化社会に向けて事業の大切さを啓蒙するとともに、再生可能エネルギーの活用を推進し、相馬が先進モデルとなるような取り組みを模索、検討してください。
55	防犯灯、外灯（LED）の維持管理	4.4	A	・防犯、省エネの観点から非常に重要な事業であり、推進のためにも更新時の費用負担の軽減策を検討してください。

平成28年度 事務事業外部評価結果 集計表

※評価点は、8名の委員がそれぞれ妥当性、効率性などについて各事務事業ごとに5点満点で評価したものの平均です。

A：事業をさらに推進することが妥当（評価点 4.0以上）

B：事業を現状のまま継続することが妥当（評価点 3.0～3.9）

C：事業の一部修正・再検討（事業内容・手法・規模・実施主体等）が必要（評価点 2.0～2.9）

D：事業の見直し・休止・廃止について検討が必要（評価点 1.9以下）

56	防災協定締結都市との交流連携	4.5	A	・災害時における地域間の共助体制には、普段の交流が重要であり、市民レベル、特に子どもたちの交流が可能となるように継続的に取り組んでください。
57	観光交流の推進	4.2	A	・観光客増加のため、観光資源のハードだけでなく、「相馬独自のおもてなしの心」で、より一層、本格的な事業の展開を期待します。